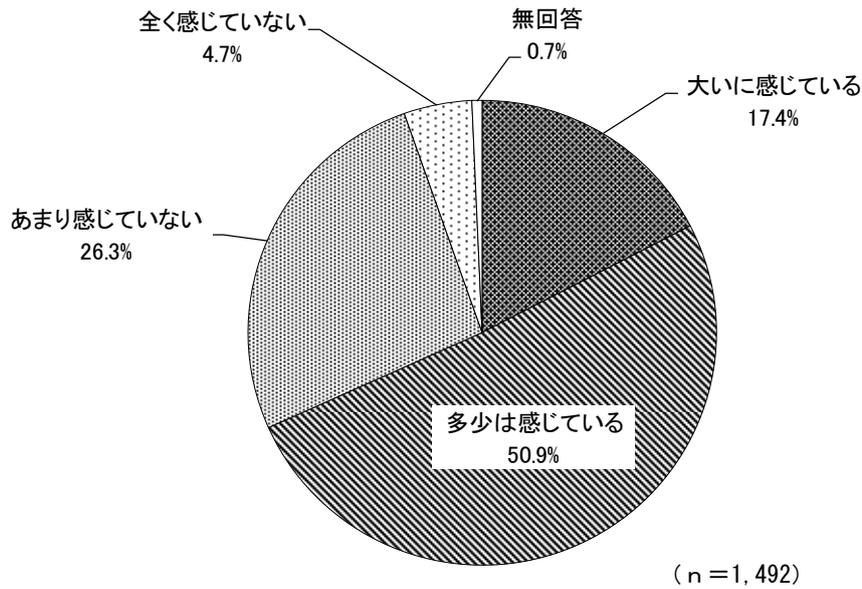


10 食の安全・安心について

(1) 食品の安全性に対する不安

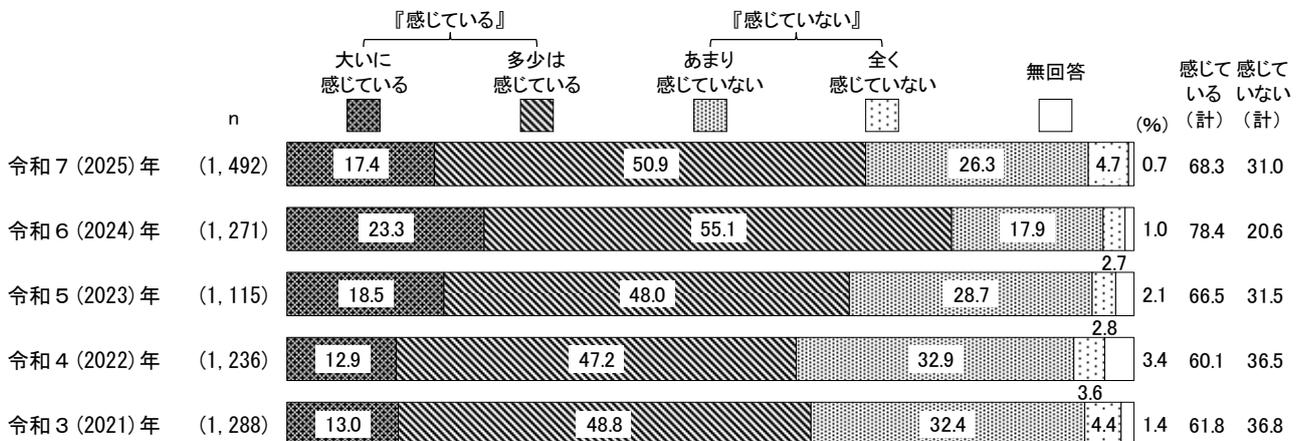
問24 あなたは、食品の安全性について、不安を感じていますか。次の中から1つ選んでください。 [n=1,492]

1 大いに感じている	17.4%	3 あまり感じていない	26.3%
2 多少は感じている	50.9%	4 全く感じていない	4.7%
		(無回答)	0.7%



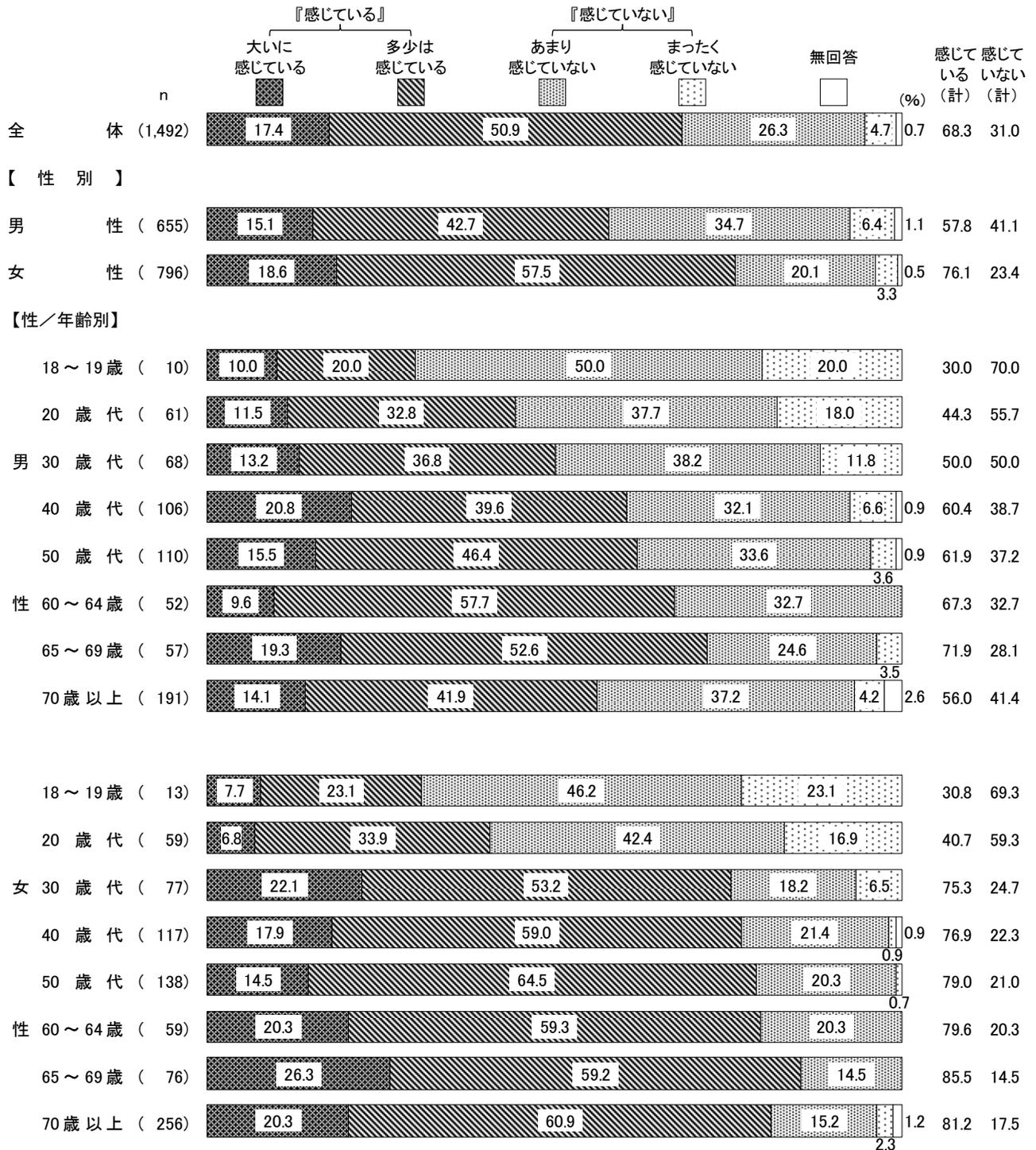
全体で見ると、「大いに感じている」(17.4%)と「多少は感じている」(50.9%)の2つを合わせた『感じている』(68.3%)が7割近くとなっている。一方、「あまり感じていない」(26.3%)と「全く感じていない」(4.7%)の2つを合わせた『感じていない』(31.0%)が3割強となっている。

[過去の調査結果]



過去の調査結果と比較すると、『感じている』では前回(令和6(2024)年)から10.1ポイント減少している。一方、『感じていない』では前回(令和6(2024)年)から10.4ポイント増加している。

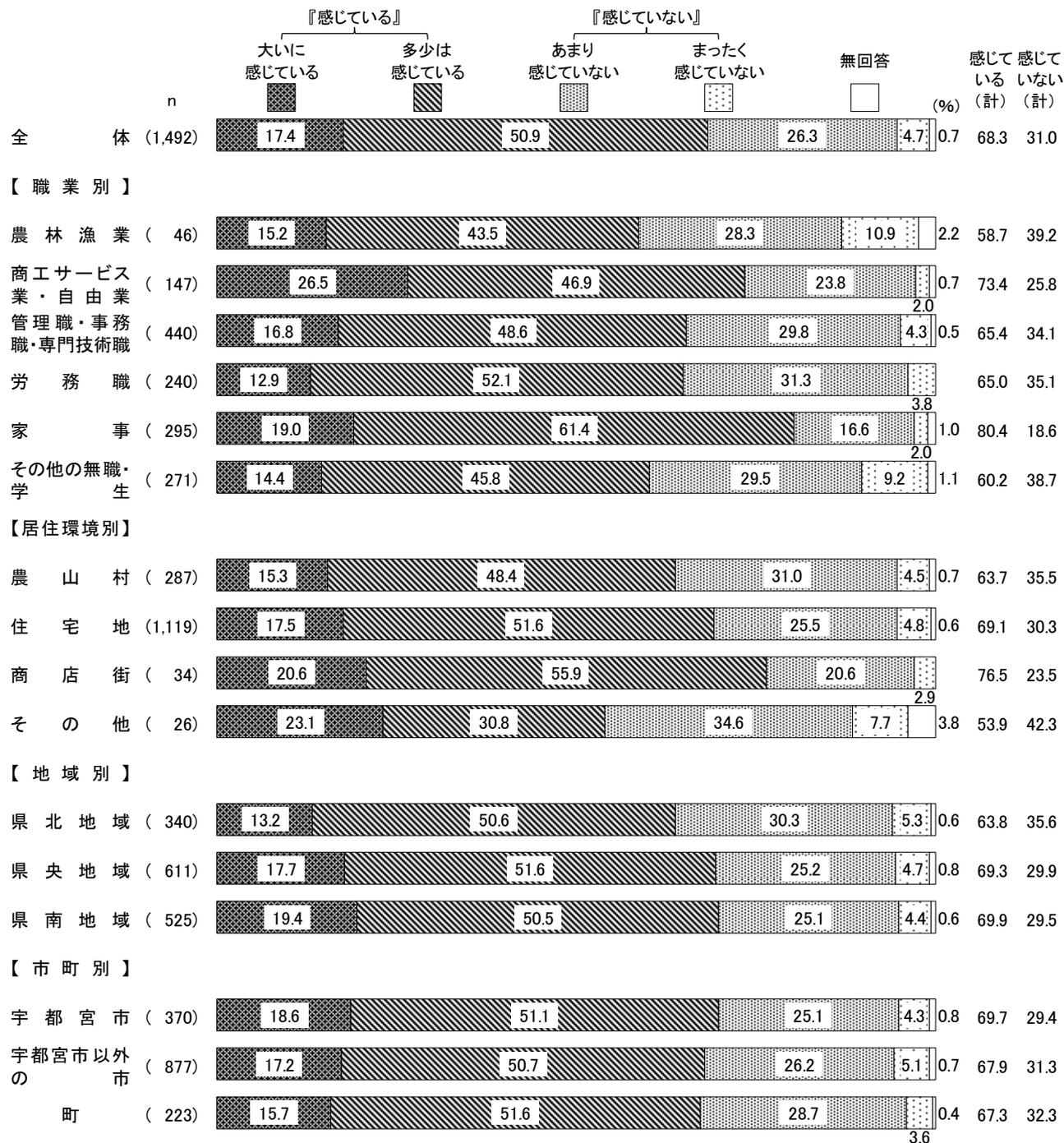
[性別・性／年齢別]



性別でみると、『感じる』では〈女性〉(76.1%)が〈男性〉(57.8%)より18.3ポイント高くなっている。一方、『感じない』では〈男性〉(41.1%)が〈女性〉(23.4%)より17.7ポイント高くなっている。

性／年齢別でみると、『感じる』では〈女性65～69歳〉が85.5%、〈女性70歳以上〉が81.2%と高くなっている。一方、『感じない』では〈女性20歳代〉が59.3%、〈男性20歳代〉が55.7%と高くなっている。

[職業別・居住環境別・地域別・市町別]



職業別でみると、『感じている』では〈家事〉が80.4%と高くなっている。一方、『感じていない』では〈農林漁業〉が39.2%、〈その他の無職・学生〉が38.7%と高くなっている。

居住環境別でみると、『感じている』では〈商店街〉が76.5%と高くなっている。

地域別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

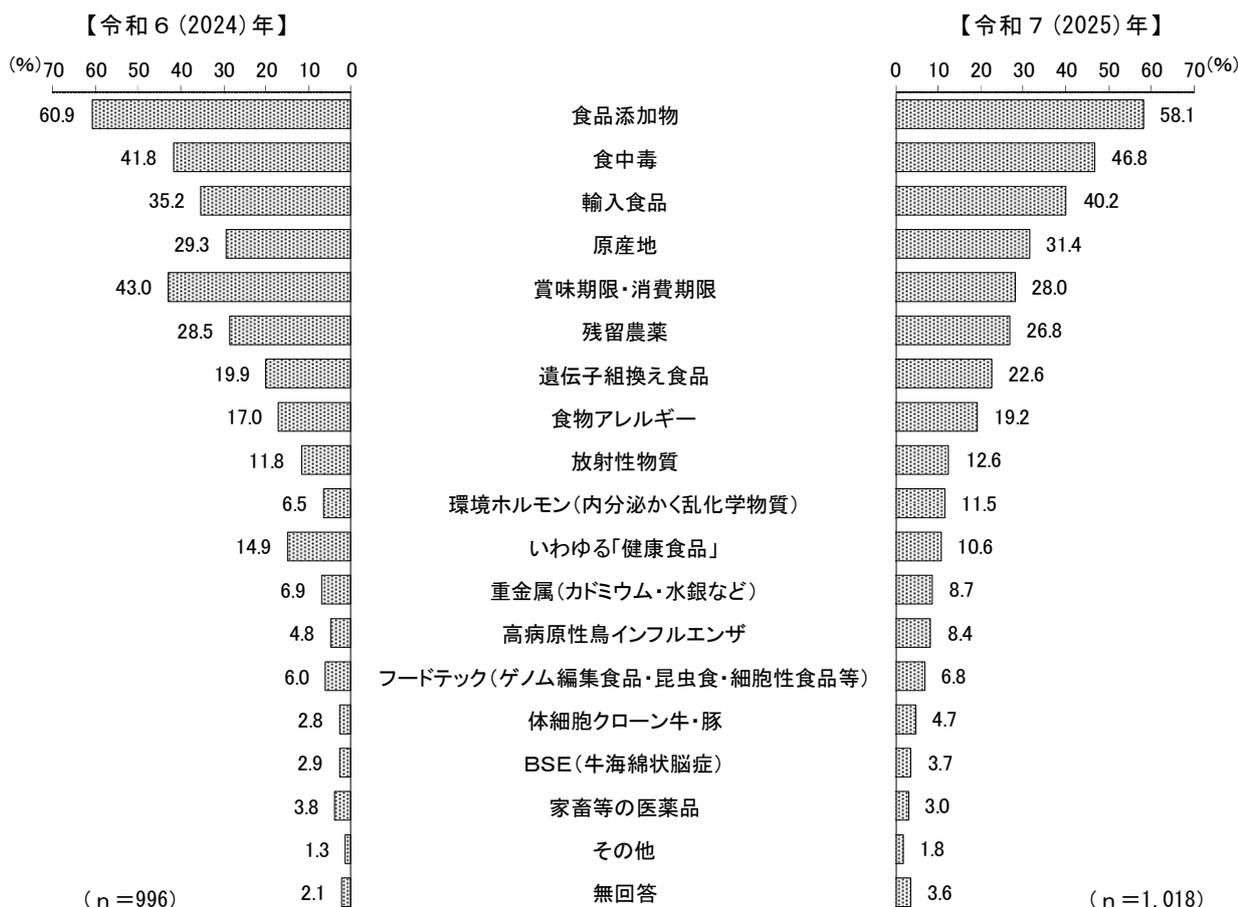
市町別でみると、大きな傾向の違いはみられない。

(2) 食品の安全性について不安に思うもの

(問24で選択肢「大いに感じている」、「多少は感じている」を選んだ方のみお答えください)

問25 あなたは、食品の安全性のどのような部分について不安を感じていますか。次の中から4つまで選んでください。 [n=1,018]

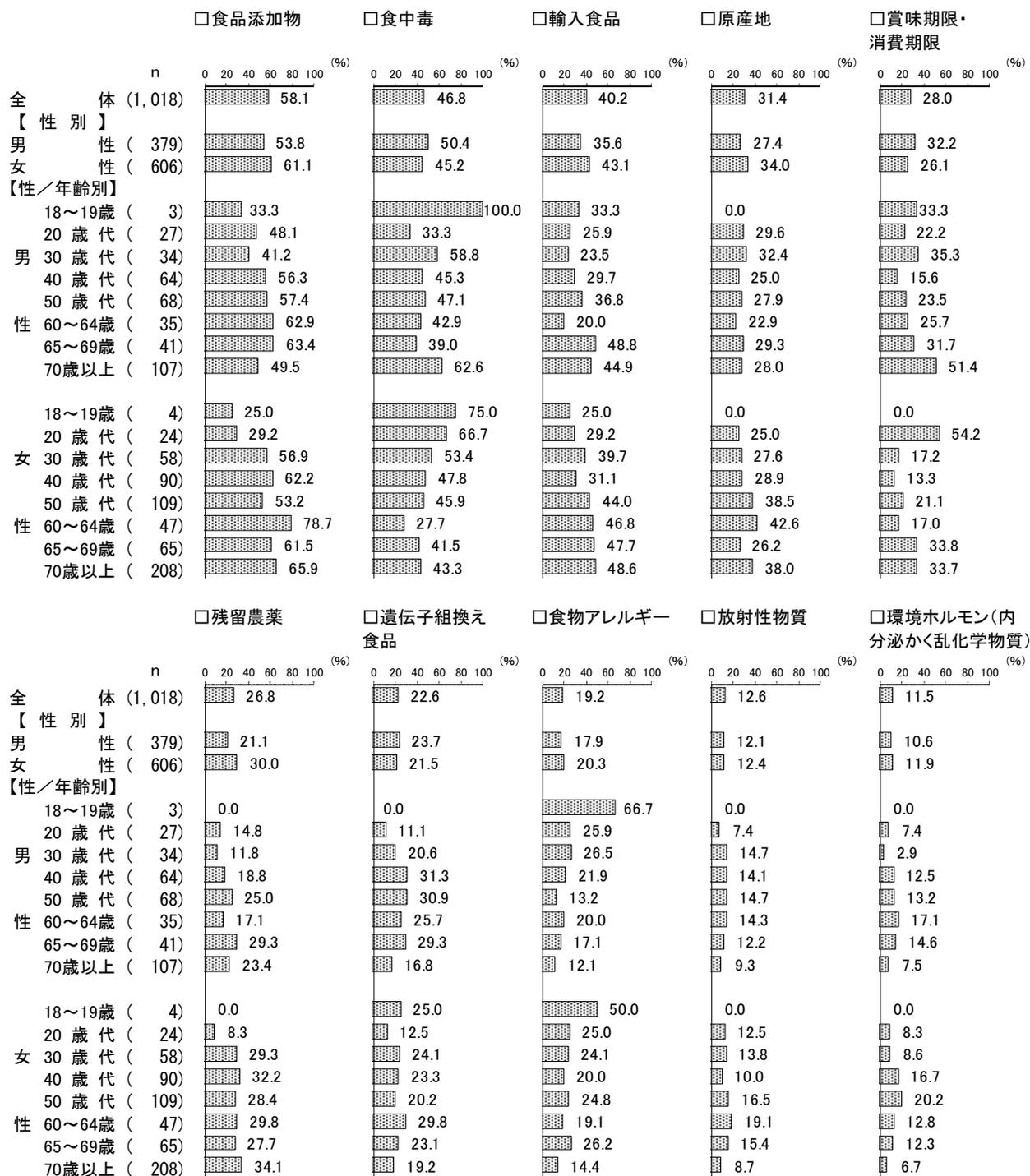
1 食中毒	46.8%	11 輸入食品	40.2%
2 食品添加物	58.1	12 BSE(牛海綿状脳症)	3.7
3 いわゆる「健康食品」	10.6	13 高病原性鳥インフルエンザ	8.4
4 放射性物質	12.6	14 体細胞クローン牛・豚	4.7
5 重金属(カドミウム・水銀など)	8.7	15 家畜等の医薬品	3.0
6 残留農薬	26.8	16 環境ホルモン(内分泌かく乱物質)	11.5
7 食物アレルギー	19.2	17 フードテック(ゲノム編集食品・昆虫食・細胞性食品等)	6.8
8 賞味期限・消費期限	28.0	18 その他	1.8
9 原産地	31.4	(無回答)	3.6
10 遺伝子組換え食品	22.6		



全体で見ると、「食品添加物」(58.1%)が6割近くで最も高く、次いで「食中毒」(46.8%)、「輸入食品」(40.2%)、「原産地」(31.4%)の順となっている。

前回(令和6(2024)年)の調査結果と比較すると、「賞味期限・消費期限」が前回(令和6(2024)年)から15.0ポイント減少している。

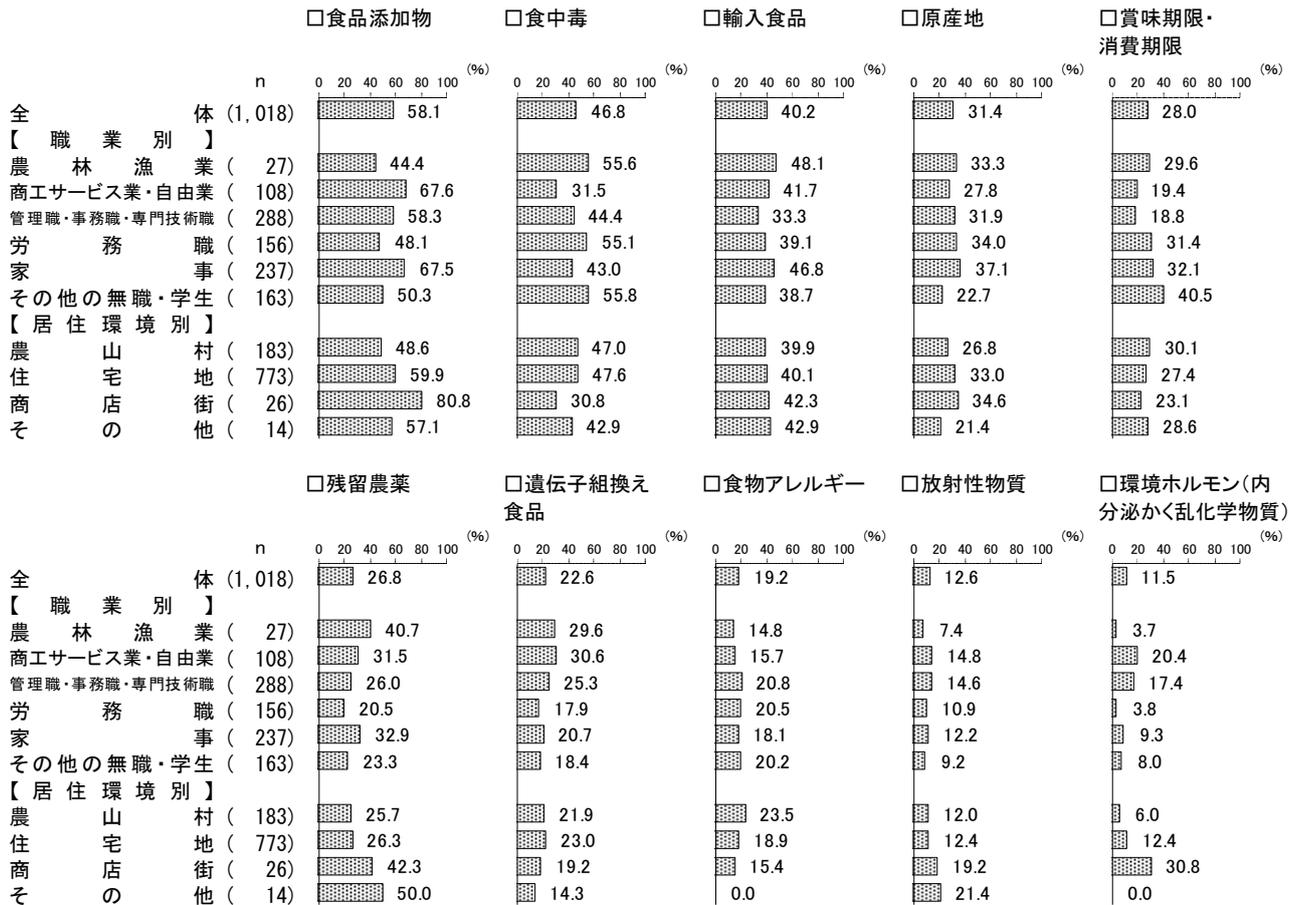
[性別・性／年齢別]



性別で見ると、「残留農薬」では〈女性〉(30.0%)が〈男性〉(21.1%)より8.9ポイント高くなっている。「輸入食品」では〈女性〉(43.1%)が〈男性〉(35.6%)より7.5ポイント、「食品添加物」では〈女性〉(61.1%)が〈男性〉(53.8%)より7.3ポイントそれぞれ高くなっている。一方、「賞味期限・消費期限」では〈男性〉(32.2%)が〈女性〉(26.1%)より6.1ポイント、「食中毒」では〈男性〉(50.4%)が〈女性〉(45.2%)より5.2ポイントそれぞれ高くなっている。

性／年齢別で見ると、「食品添加物」では〈女性60~64歳〉が78.7%と高くなっている。「食中毒」では〈女性20歳代〉が66.7%と高くなっている。「輸入食品」では〈男性60~64歳〉が20.0%と低くなっている。「原産地」では〈女性60~64歳〉が42.6%と高くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈女性20歳代〉が54.2%と高くなっている。

[職業別・居住環境別]



職業別でみると、「食品添加物」では〈商工サービス業・自由業〉が67.6%、〈家事〉が67.5%と高くなっている。「食中毒」では〈その他の無職・学生〉が55.8%、〈農林漁業〉が55.6%、〈労務職〉が55.1%と高くなっている。「輸入食品」では〈農林漁業〉が48.1%、〈家事〉が46.8%と高くなっている。「原産地」では〈家事〉が37.1%と高くなっている。「賞味期限・消費期限」では〈その他の無職・学生〉が40.5%と高くなっている。

居住環境別でみると、「食品添加物」では〈商店街〉が80.8%と高くなっている。「食中毒」では〈商店街〉が30.8%と低くなっている。「残留農薬」では〈商店街〉が42.3%と高くなっている。「環境ホルモン(内分泌かく乱化学物質)」では〈商店街〉が30.8%と高くなっている。